

旭が誇る海を守ろう

市長 米本弥一郎



私は、旭市を紹介するときに、十九里海岸の東端に位置し、日本一身近な海づくり推進事業「ぼるぼる」を実施していることを伝えていきます。海は旭のシンボルの一つであり、地域の特色である寒暖差の少ない気候をつくり、私たちに大きな恵みを与えてくれています。

豊かな漁場である飯岡沖では、イワシやヒラメ、シラスなどの新鮮な水産物が取れ、食卓を彩ってくれます。昨年は「大粒活はまぐり」が、テレビ番組でふるさと納税返礼品グルメの全国1位に選ばれ、市への寄付額を大きく押し上げました。

海は市民にとって身近な憩いの場でもあります。サーフィンをする人や海岸沿いを散歩する人、波音に耳を傾けたり、朝日や夕日を眺めたりする人など、日ごろから多くの市民が楽しんでいます。

夏には矢指ヶ浦海水浴場が開設され、海水浴客でにぎわいを見せます。市外からもサーフィンや釣りなどのレジャーを目的に、多くの人が訪れます。またロケ地としても活用され、海岸や灯台などを舞台に、CMやドラマが撮影されています。

旭の海は、さまざまな魅力を持つ重要な地域資源です。今後は国と県が推進する、海と漁業のまちならではの魅力を生かした「うみぎょう海業」の展開が期待されます。市としても飯岡漁港を中心に、地域振興とにぎわいの創出に取り組みたいと考えています。そして何より忘れてはならないのが、海岸清掃などを行う地域住民やボランティアの存在です。海を守る人たちに感謝するとともに、市民の皆さまにも海の大切さを再認識していただけたらと思います。「チーム旭」で海を守っていきましょう。